

令和六年十月吉日初版作成

守護の神霊の働きを知る有難さ

高嶋善三郎

目次

- 天風師がヨガから学ばれたこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 「感謝」と「歓喜」は偉大なる力を引き寄せる合図・・・・・・・・・・ 5
- 守護の神霊の働きを知る有難さ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

お願い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

例えば、この点について分かりにくいとか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構ですので、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

(スマホ) 09033466619

(パソコン) zensan@peach.ocn.ne.jp

天風師がヨガから学ばれたこと

拙著『現実的楽しさに心を馴染ませる』の中の天風師の教えを私たちがどのように受けとめ、参考にしていけばよいかをもう少し詳しく整理してくださいというご質問がありましたので、それについて言及したいと思います。

天風師がカリアップパ師から何を学んだかを整理したいと思います。カリアップパ師が「人間であるおまえが、傷の治癒ではなぜ大に劣るのだ」と天風を見据えて問いを発した」のは、取越し苦労はやめるようにという事だけではないのです。天風師の肉体本位の生き方では、取越し苦労をやめることは出来ないと言われているのです。自分の肉体の生命を生かしている宇宙本体と肉体の生命が一つになることの大切さを教えられたのです。この生き方をすれば、宇宙の根源から偉大なる力が湧き上がり、すべては愛と調和の生き方が自然とできるのだと導かれたのです。

そして生命の根源と一つになる方法を伝授されたのです。

その方法が、天風師の教えのなかで、最も中心的な位置を占めている教えである、天風式座禅法という「安定打坐法（あんじょうだざぼつ）」（肉体本位ではなく、霊的本位の心の生き方）として示されています。

そこで、座禅の教義の中で一番難しいと今も昔も言われている「三昧境」即ち「霊的境地」に簡単に入れる方法として解説されています。

宇宙本体と人間のつながりは、電灯と発電機のとおりと同じで、人間が心をトランス状態（無念無想）にすれば、わけなくこのスイッチをひねったことになる。無念無想とは、心が肉体のことも考えず、心が心の動きをも思わない状態をいうと説明されています。

霊的境地にフッと入る天風式座禅法について、次のように、解説されています。例えば、鳴っているブザーの音を一心で聴いていると、禅でいう「一心の境」という状態になり、そしてこのブザーの音がサッと消えたその瞬間が、心が肉体を思わず、心の動かない無念無想の状態です。人によっては、無念無想の状態が瞬間で終わる人もいますが、慣れてくると、一分も、二分もその境地にいられるようになると言われています。

ここでこれまで日本における座禅では、悟りが難しかったのはなぜかについて見てみましょう。

それは、天風師によると、禅宗では「明鏡の払拭」と云われるように、宇宙の根源からくる偉大なる力を得るため、自分の去来する想念と格闘し、抑えることに終始したことによるのです。それは、泥汚れを泥水で洗っても、きれいにならないのと同じ理屈であり、永久にきれいにしないのです。泥汚れをきれいにするには、真水で洗う以外にないのです。そして真水を得る方法としてカリアップ師は、自分の心に去来する想念と格闘し、抑えることに意識を注ぐのではなく、宇宙の根源からくる偉大なる力に意識を集中することにより、直接その力を得ることを教えられたのです。

この真水にあたるのが、カリアップ師から言われた「天（宇宙の根本主体）の声であり、絶対的な静けさであり、その世界に入ると、人の命の中にある偉大な力が湧き上がるのだ」と教えられたのです。

天風師は靈的境地に入るのに参考になる三つの歌を示されています。

「安生の 打坐密法の 真諦は 心耳（しんじ）を澄まし 空の声きく」
「心をば 虚空の外に 置き換えて 五感気にすな 打坐の妙法」
「心をば 静かに澄ます 空の空」

ここで、天風師の言われている空について整理してみましょう。

同師によると、天の声は絶対なる静寂を意味していますが、五井先生のみ教えでは、神聖と表現されています。

五井先生の言われている神聖（本心）は、「大自然の根源の働きをする生命を、その智慧能力で、大調和達成のために生かききってゆく働きである。この神本来の神聖の世界は、愛深き心、美しく清らかな心、真をつくす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界なのである。」（『続宗教問93』）

神聖（本心）の中には、悪いもの、悪いことが、一切無い。完全円満であり、大智慧、大愛で満たされている。その中に一切の想念を統一してしまうと、そこから生まれてくる智慧能力によって開運もし、安心立命していく。肉体意識がいかなる不安恐怖の感情に襲われても、動揺もなく、ただ喜びと感謝に包まれ、必要に応じ、無限なる叡智など無限あるすべてを現わし、満たす存在と「解説されています。」（『愛するといふこと』）

しかし神聖の大切さを認識しないと、神聖から供給されているエネルギーを間違って使用することとなり、肉体の心の誤った選択と注目をし続け、迷いの連鎖に陥り、その輪廻転生の世界から解脱できなくなります。

一方空とは、五井先生のみ教えでは、「神聖と一体になった心境」あるいは「すべての現われに絶対に把われない境地で、肉体観念はもちろん幽体観念、霊体観念を解脱した宇宙即自我、自我即眞理という境地で、自己の中に一切があり、一切の中に自己がある。即ち実在そのものという境地」言われています。『空即是色 般若心経の世界』

また「空」という言霊は、実にすごい言葉で、五井先生が修行中にいろんなことを体験したが、五井先生が悟ってしまうとカルマが働けない、魔が働けないというので、業想念が邪魔する。その時五井先生は腹の中で「空ー！」って空の気合をかけた。空っぽの空だから何も無い。障るものがなにもないから、ピュッと取れてしまったと言われています。(略) しかし、本当の空になるのは大変なんで、そこで消えてゆく姿を使っていると言われています。

以上の点をもとに天風師の「空」の受け止め方を整理してみましよう。「心耳(しんじ)を澄まし 空の声きく」とは、絶対的な静寂に心の耳を傾けることにより、神聖と一体化となった(神体を顕現した)自分の声をきくという意味合いに受け止めることが出来ます。

五井先生の世界平和の祈りの統一テープと「消えてゆく姿」という言霊を活用している私たちは、私たちが目指すのは五井先生の柏手や霊笛を神聖のひびきと一体になった自分と受け止めていけば、天風師提唱されている絶対的静寂の世界に入り、空の心境になることがより平易になると言えます。

そして世界平和の祈りをする、救世の大光明が降りてくるといわれていますが、実は世界平和の祈りに心耳を傾け、一体となった時、救世の大光明は降り注がれてくることであつたことに気がきます。

「感謝」と「歓喜」は偉大なる力を引き寄せる◎

天風師は、日々の生活の中で、「感謝」と「歓喜」の感情に満たされている状態を保つことが宇宙の根源主体と一体になるうえで、重要であると強調されています。

「宇宙の根源主体との調子を合わせるダイヤルは、人間の心が先に言及した無念無想になることのほか、「感謝」と「歓喜」の感情に満たされている状態だ」といわれています。ただし、人間の心が宇宙の根源主体のみ心である、真(誠)・善(平等な愛)・美(すべてに調和する

田満な心に向けられていることが必要であり、「感謝」と「歓喜」の心は宇宙の根本主体に正しい力を呼び掛ける最高の合図となり、宇宙の根本主体は、この合図を受けると、ただちに、限り無き力を健康や運命のうえに、与え給うのであり、人間の心が「感謝」と「歓喜」の心で輝けば輝くほど、その生命は新しく生き返って来るのだ」と解説されています。

このことは、同書の他の箇所の「誦句(しゅうく)」において「およそ宇宙の神霊は、人間の感謝と歓喜という感情でその通路を開かれると同時に、人の生命の上に進(ほとぼし)り出(い)でようと待ち構えている」とも表現されています。

そして、健康や運命のうえで、満たされていない時でも、感謝と歓喜の心を強く持ち、笑顔で過ごせば、宇宙の根本主体から限り無き力を引き寄せることができ、それを健康や運命のうえに、与え給うのだと言われています。

守護の神霊の働きを知る有難さ

一方 五井先生のみ教えるでは、宇宙神へ感謝するとともに、自分を常に

守ってくれている守護の神霊に感謝をすることの重要性を指導されています。この点が、天風師の教えと大きく相違するところです。

守護の神霊は、「さまざまな環境に各人を置いて、その人が永遠の生命を一日も早く、自分のものにできるような経験を与える」存在であり、「人間は、そういう経験を過去世から種々と与えられながら、人間は成長して行くのである。」(白光誌1967年1月号)

また守護霊は霊界、幽界、肉体界と三界、を通して働ける者なので、幽界において、できつつある運命、あるいはすでにできあがって、時間の経過につれて自然に肉体界(現界)の運命として現われぬように自分が引き受け、修正しているのである。修正するのは現わす業想念(誤てる想念)の90%で、後10%は本人の魂を磨くため業想念(誤てる想念)を夢などにして現わすのである。現われれば消えるのが想念の性格であるので、守護霊が夢や小難にして現わし、消してくれたさっているのである。

このように守護の神霊の働きを知り、それに対し、感謝し受け入れれば、守護の神霊は、私たちを守りやすくなりますし、一方私たちは、守護の神霊の力を自分のものとすることが出来ます。そして私たちは感謝と歓

「消えてゆく姿の先は、神様のみ心の中なのである。だから神様にすべてをお任せしてしまうことは、消えてゆく姿とおなじなのである。ただ消えてゆく姿といっても、神様がいないと消えてゆかないのである。守護霊守護神があり、大神様がいないと消えてゆかない。

なぜ消えてゆかないかというと、三界をグルグル横に回っていて、あいつは憎らしい奴だ、ああいけないのだと思っても、ただそれだけではその想いは消えない。

それをおぼろげにするかというところ、守護霊さん守護神さんありがとうございます。

まずとやるべく、今まで横に回っていたものが、縦にスーッと上に、神様の中へ入ってそこで消え終わる。そうするべく、その回っているものがだんだん少なくなる。消えてゆくに従って、本心の光がどんどん開いてゆ

り、どのような感情にも心を乱すことはなくなるでしょう。

また自分が手放したい想いを宣言すれば、そのように導いてくれます。私の体験から一つ例をあげますと、祈っているのに、日常生活において、もの悲しい想いや怒りの想いがふっと感じられました。そこでその原因について守護の神霊に聞きますと、ある人を通して答えが返ってきました。それは、私が幼児のとき、無防備に周りの人たちの分別心に基つく価値観を受け入れていたことに気付きました。そこで、毎朝ご神事後、

「他人の怒り、悲しみ、苦しみを手放します」と宣言をするべく、不思議にも、もの悲しさや、怒りはなくなりました。

守護の神霊の働きを理解し、それを感謝で受け入れていくことは、私たちの天命を完うしていく上で、不可欠であり、どんなにありがたいことかを知るべきでしょう。